

# 21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部  
発行者：亀田 泰武  
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当  
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1  
URL <http://www.21water.jp/>  
E-mail [info1@21water.jp](mailto:info1@21water.jp)

第48号 2016年12月1日号

## 事務所の移転

理事 押領司重昭

21世紀水倶楽部と何の関係が、と思う方がおられるかも知れません。この度、移転する事務所は、当倶楽部が登記しているところです。事務所移転の業務は、これまでの下水道事業プロジェクトと異なり新鮮でした。途中ですが報告いたします。



まず、賃貸借契約、提示された契約書には、「賃貸借室内の建具類を含む全ての修繕は乙の負担」というものがあり、瑕疵的な不具合まで、こちらが負担するように読み取れるなど、他にも不利な条文が散見されました。仲介業者を介して交渉しましたが、仲介者自身が聞き入れてくれませんでしたので、管理会社と直接交渉することにしました。条文修正要望を示し交渉したところ、大方のところ聞き入れてもらいました。先ほどの条文は、特記に「乙の過失により発生した修繕」と範囲を限定することができました。初めての経験でしたが、こちらの意図を理解し対処していただいたので、最終的には、納得のいくものとなりました。

次は、当倶楽部の同居、賃貸借契約上では、同居人の扱いです。申請にあたり、当社と水倶楽部との関係、水倶楽部に対し指示や命令権限を持っているのかなどの質問を受けました。当社は決算書等を提出し身体検査を受けていますが、世の中には様々なNPOが存在しますので、正体が分からないと大家さんも不安だったと思います。最終的に、私が水倶楽部の理事に就任していることが決め手になったようです。

移転には、引越、什器手配、電気・電話・LAN、間仕切等の多くの作業が伴います。これらには、品質、コスト、納期等に関する「プロジェクト・マネジメント (PM)」の手法が適用できます。各作業

は、移転業務をワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー (WBS) により展開したワークパッケージと言えます。各ワークパッケージは、7社が担当することになり、全社を集めて工程会議を開催しましたが、要領は、処理場建設の工程会議と同じようなものです。前職のプロジェクトマネジャー (PMR) に戻った気持ちで、マネジメントすることができました。しかし、初めて経験するプロジェクトのため、PMRとしては、及第点を取れたか自信はありません。

新事務所での営業開始は、12月中旬で、現在、様々な調整に追われているところですが、無事引越ができ、快適な職場環境を提供できるとともに、水倶楽部にも快適な会議スペースを提供できることを願いながら結びとします。

## 2016年度臨時総会報告

理事・事務局長 田野嘉男

NPO 21世紀水倶楽部の臨時総会が11月25日(金)千代田区神田須田町のメタウォーター株式会社の会議室をお借りして開催されました。正会員総数91名の中で56名(委任状を含む)の参加を頂きました。

臨時総会開催の事由は、当倶楽部事務所の移転に伴い定款改正の必要が生じたこととあります。経緯については、このニュースレターの巻頭言で押領司理事から述べられております。この場をお借りして賛助会員の三水コンサルタントさんに御礼を申し上げます。

議事は定款の変更であり、満場一致にて了承されました。

議案

NPO 21世紀水倶楽部の定款第2条を次のように変更する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を東京都文京区に置く。

付則 この定款変更は平成28年12月12日から施行する。

現行規定

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を東京都豊島区目白2丁目1番1号に置く。

なお、改正定款では地番まで表示していませんが、新事務所は  
〒112-0002 東京都文京区小石川5-5-5 桐山ビル6F  
電話番号 03-5395-0533

## 2016 年度活動報告

### 旧三河島污水処分場ポンプ場施設見学報告

理事 佐藤和明

水倶楽部では「優れた下水道技術を学ぶ見学会」を今年から企画し、会員相互の研鑽と親睦を図ることといたしました。その第1回として、東京都の旧三河島污水処分場污水ポンプ場施設を見学しました。11月2日、あいにく時々時雨れる天気でしたが、会員19名が参加しました。



午後2時現地集合で、三河島水再生センター長さんのご挨拶をいただいた後、三河島処理場の歴史を紹介するビデオを見せていただきました。初めての下水道建設に先人がどのように取り組んできたのか、当時のイギリスその他欧米諸国の事例を随分と勉強しながら大事業にとりかかったようです。

その後はいよいよ現場視察です。三河島処理場に56年前に奉職された現東京都下水道サービス(株)研修センターの石井茂雄様、その他の講師陣の皆様に案内いただきました。集合写真はポンプ場の全景が見渡せるところで撮りました。後ろに見えるレンガの建屋が主ポンプ室で、鉄骨・鉄筋コンクリート造、壁面のレンガは装飾材、当時としては最新の美的価値観を持って設計され

た建物であるとの説明を受けました。重要文化財(建造物)の意味がここにあったのかと気付きました。

流入渠の敷石張りや沈砂掻き揚げ機、ポンプ容量の構成、ベンチュリ流量メーターなど当時からこのような技術力があつたのかと思ひ知らされます。とくに東京帝国大学の井口博士のポンプ理論により作製された「みのくち式渦巻ポンプ」が据え付けられていましたが、これがその後の荏原製作所の起業の礎となったということ聞き、水を扱う技術がこのように発展してきたのかと改めて感心しました。見学する箇所それぞれが興味深く、予定していた時間をかなり超えてしまいました。見学後に石井茂雄様から「旧三河島污水処分場・当時の下水道技術」ということで1時間程度講話をしていただく予定となっていたが、残念ながら十数枚の当時の写真をご紹介いただくうちに終了時間となってしまいました。

マニュアルに沿った現代の技術に慣れてしまっている私達は、時々こうした技術の源流をじっくり見る必要があるのではないのでしょうか。今回、特別な機会を用意いただきました東京都下水道局、東京下水道サービス(株)の関係者の皆様に深く感謝いたします。

## 編集幹事のあと整理

- 巻頭文は押領司理事の所属会社(当会賛助会員でもある)の事務所移転の記です。ご専門の技術とは門違いの「総務的仕事」ですが、うまく結び付けて工夫されています。
- この文を読まれた後、次の田野事務局長の文に進むと、NPOの事務所所在地変更の理由がわかりやすくなります。
- 佐藤理事が中心となって「優れた下水道技術を学ぶ見学会」を会員活動の一つとして始めることになりました。これからシリーズとなりますが、第一回目は三河島ポンプ場施設。
- 今号では会員だよりへの投稿がありませんでした。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月